



野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールのかえ方について寄せられたご意見に対するダム管理者のかえ方

野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールのかえ方について、平成31年4月16日から令和元年5月16日まで意見募集を行い、32名の方からご意見が寄せられました。その結果をダム管理者のかえ方とあわせて公表いたします。

【ウェブサイト：<http://www.skr.mlit.go.jp/yamatosa/info/ikenbosyuu.html>】

野村ダム・鹿野川ダムの操作規則の変更を行うための関係機関との協議等を本日（5月24日）より開始します。

※本施策は、広域地方計画【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】の取組に該当します。

＜問い合わせ先＞

◎国土交通省 四国地方整備局 河川部 河川管理課
課長 渡邊 健二（内線：3751）
直通：（087）-811-8320

国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所
副所長 石岡 克浩（内線：204）
代表：（0893）-34-3000

国土交通省 四国地方整備局 野村ダム管理所
専門官 田村 剛（内線：330）
代表：（0894）-72-1211

◎印は、主な問い合わせ先

野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールの 考え方について寄せられたご意見に対するダ ム管理者の考え方

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

鹿野川ダム改造に伴う野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールへの改定については、「関係住民からの意見聴取」を以下のとおり実施しました。

(1) 意見聴取対象：「野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールの考え方」

(2) 意見聴取対象者：肱川流域に在住の方

(3) 新たなダム操作ルールの考え方についての住民説明会：

新たなダム操作ルールの考え方について理解を深めてもらうため、以下の4会場で説明会を開催しました。

【肱川地区会場】	開催日：令和元年5月8日（水）	大洲市	肱川風の博物館
【東大洲地区会場】	開催日：令和元年5月11日（土）	大洲市	総合福祉センター
【野村地区会場】	開催日：令和元年5月14日（火）	西予市	野村小学校
【菅田地区会場】	開催日：令和元年5月15日（水）	大洲市	平公民館

(4) 紙面による意見募集

紙面による意見募集を以下の要領で実施しました。

1) 意見募集対象：「野村ダム・鹿野川ダムの新たな操作ルールの考え方」

2) 募集期間：平成31年4月16日（火）から令和元年5月16日（木）

3) 意見提出方法：郵送、FAX、ホームページへの投稿、意見箱（資料閲覧場所に設置）

(5) 資料の閲覧：

資料は、山鳥坂ダム工事事務所・野村ダム管理所のホームページに掲載するとともに、国及び市役所（野村支所・河辺支所・肱川支所・長浜支所）の全10カ所で閲覧できるようにしました。

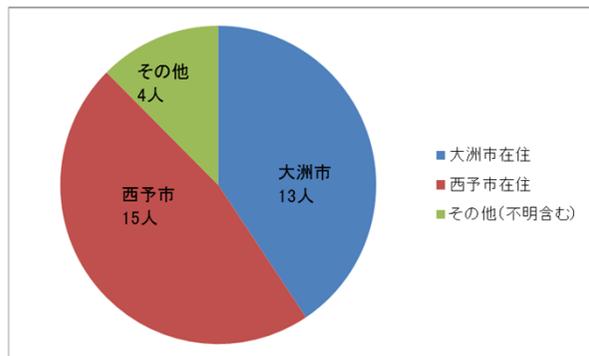
◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

(6) 意見提出者：

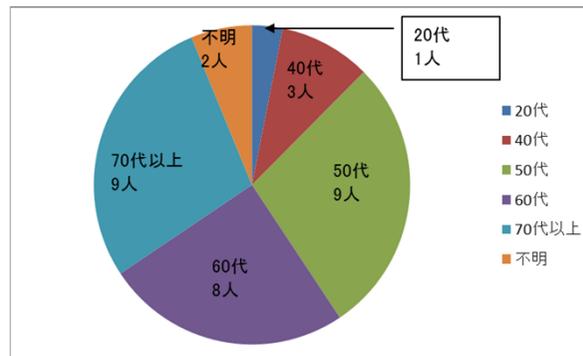
意見提出者は合計32名。

意見提出者の地域別、世代別、性別、職業別、手段別の区分を以下に示します。

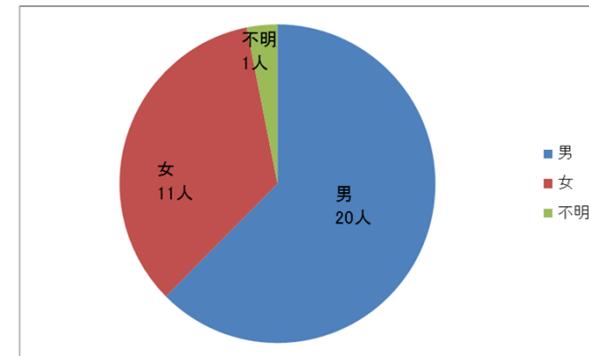
地域別意見数



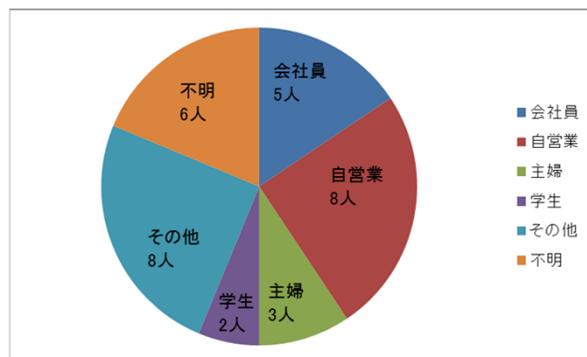
世代別意見数



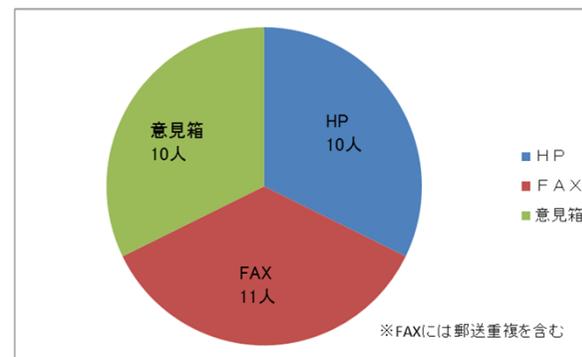
性別意見数



職業別意見数



手段別意見数



(7) 意見提出者の意見：

関係住民から頂いたご意見の要旨とそれらのご意見に対するダム管理者の考え方を次ページ以降に示します。

(8) その他：

ダム操作に関係するご意見をとりとまとめています。河川整備等に関するご意見については、今後の河川整備計画見直しの参考とさせていただきます。

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

◇降雨予測等による柔軟なダム操作

分類	意見の要旨	ダム管理者の考え方
A：降雨予測等による柔軟なダム操作	○臨機応変に対応できるマニュアル、ルール作りにすべき。	<ul style="list-style-type: none"> ●気象予測を活用したダムの柔軟な操作については、予測精度の現状や外れた場合のリスク等の課題から、現時点においては直ちに操作規則に反映することは困難です。 ●ただし、今後も防災操作の高度化に向けて、予測精度向上のための技術開発に努めてまいります。
	○発電事業を放棄して、治水目的に特化するのだから、操作規則ではどのような不測の事態にも対処出来る、即ち想定外をも想定したと堂々と宣言出来る操作規則にすべき。	
	○大・中・小規模洪水に関わりなく、「放流により下流に急激な変動が生じないように努める」ことは当然のことで、想定外をも想定した規則であることが確実に表記。	
	○予想が外れることは考えにくいし、仮に予想が外れても、まったく雨が降らないことはない。放流量を早めに増やすべきである。具体的には、肱川流域全体に200ミリ以上の降雨が予想される場合には、最大流入量が毎秒3000立方を超えることが予想されるので、それをさけるために、早い段階で850立方、その後は流入量に応じた放流量の増加を図る。	
	○気象予測は操作に反映させないとの説明であったが、予測は予測ではずれることがあるが予想されるのならその状況は少なからずも考慮する必要性はあるはず。	
	○①台風時②梅雨の時③集中豪雨時と大きく、異なる放流を行って下さい。最近の雨量は予測できないと思う。ダムの放流については、3通りの雨量に合った方法で行って下さい。	
	○降雨予想技術も進歩しております。「中規模」「大規模」「これまでに経験したことない規模」の最低3通りの操作基準が必要。	
	○その時の状況によってノルマ通りじゃない方法では出来ないか。	
	○防災としてダムを機能させるのなら、予測できないことに対して、最悪の事態を想定した迅速なダム操作、対応を望む。	
	○もっと少しずつ放流する事も出来たのではないか。	
○気象予報は、もっと精度の高いものを使ってください。		

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

◇事前放流の更なる増加

分類	意見の要旨	ダム管理者の考え方
B：事前放流の更なる増加	○事前放流で鹿野川ダムの容量をふやせ、ダム機能を十分活かせることが出来るのではなからうか。	●鹿野川ダムの構造上、予備放流水位（EL. 76. 3m）より下げることはできません。また、現状において菅田地区の河道条件は変わらないことから鹿野川ダムの洪水調節開始流量600m ³ /sは変更せず、国及び県が連携して概ね5年で実施する肱川緊急治水対策の進捗を踏まえて操作規則を再度変更することとしています。
	○鹿野川ダムの治水容量をもっと増やすべきである。具体的には、肱川流域全体に200ミリ以上の降雨が予想される場合には、今の変更計画よりも600万トン増やして、治水容量を2690万トンにすべき。	●野村ダムの事前放流は、利水者の協力を得ながら対応を図っていきます。野村ダムの洪水調節容量を600万m ³ 以上に増やすためには、貯水池斜面の安定を考慮した水位低下速度の向上や放流能力増強等を検討する必要があります。
	○今回のルール改正で、この100万トンを早急に追加できない理由は何故ですか？この100万トンの差を埋める為、将来どのような対策が講じられるのでしょうか？ ○今回のルール改正は、西日本豪雨があり、甚大な被害が出たからではなく、鹿野川ダムの洪水吐トンネルが完成したから。こういう認識でよろしいでしょうか？	●操作ルールの改定は、鹿野川ダム改造事業により増加した洪水調節容量を活用して、堤防整備の状況を考慮した上で、平成30年7月豪雨にもできる限り被害を軽減できるような操作ルールの見直しを行ったものです。
	○全体の地域住民が安心して暮らせるよう、ダムにできる最大限の能力を示してください。	
	○前提条件として、野村ダムの事前放流（利水者の協力）による容量の確保及び鹿野川ダム改造事業によって増加した洪水調節容量を活用。	
	○水位を決壊寸前まで一杯にするのが間違っている。	
	○もっと少しずつ放流する事も出来たのではないか。	
	○雨の時期になる前に余裕を持ってダムの水を抜いておけ。	
	○次回より大雨の時には降ってくる水の量をどんどん流してください。	

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

◇情報提供

分類	意見の要旨	ダム管理者の考え方
C：情報提供	<p>○気象庁から事前に「記録的な大雨」と発表されている場合や、大雨を伴う大型の台風の影響が事前に予想される場合など、「異常洪水時防災操作」実施の可能性が高い場合や、河川の氾濫が予想される場合など、大洲市長をリーダーとする、5名程度の市側の防災対策チームを結成させ、国交省のダム管理者との話し合いの元に、もしもの場合、どのようなタイミングで、どのような操作を行うかを話し合い、最終決定を行うなど大洲市側にもダム操作に関して、ある程度の権限を持たせる必要もあるのではないかと思います。</p>	<p>●大規模な洪水が予想される場合は、国土交通省から大洲市及び、西予市の災害対策本部に向けて災害対策現地情報連絡員（リエゾン）を派遣し、適切な情報提供を行うとともに、要請を受けた様々な対応を行っており、今後も継続して実施します。</p> <p>●西予CATVには、既に画像を提供し、視聴出来るようになっています。また、ケーブルネットワーク西瀬戸には、同様に鹿野川ダム及び肱川橋等の画像を提供し、視聴出来るよう対応を図っていく予定です。</p>
	<p>○ダム湖へのライブカメラ設置のお願い。肱川橋や都谷川樋門など4か所あるライブカメラに加え、野村ダム鹿野川ダムのライブカメラを設置して頂きたい。</p>	<p>●ダムの容量には限りがあるため、ダムの容量が満杯に近づくと異常洪水時防災操作（ダムに入ってくる量とほぼ同量を放流する操作）を実施する可能性があることを広報します。</p>
	<p>○今後は、パンフレットその他大きく「ダムには限界がある」と記載してください。山鳥坂ダム建設についても、この言葉はいつも付け加えてください。</p>	<p>●異常洪水時防災操作（ダムに入ってくる量とほぼ同量の水を流す操作）が必要となる場合は、3時間前に関係機関通知及びサイレン・スピーカー・電光表示板・警報車により住民周知を行うとともに、マスコミとも連携し、テレビ表示などを活用して住民の方への周知に努めます。</p>
	<p>○異常洪水時防災操作が必要とされる場合、その周知は徹底されなければならない。伝えると伝わるとの違いを理解し、市との連携を密にとり、ダム操作に関する情報は、すべて、リアルタイムに開示すべき。</p>	<p>●野村ダム下流で想定しうる最大規模の降雨（2日間で811mm）があった場合の洪水浸水想定区域図を水防法に基づき、愛媛県において公表しており、約104haが浸水することが想定されます。この洪水浸水想定区域図は、5月21日より愛媛県ホームページで公開しており、今後、西予市役所や支所でも閲覧できると聞いています。</p>
	<p>○ダムから市への伝え方、市から住民への伝え方とタイミング、全てがうまくいかないと昨年ようになります。昨年以上の大雨が降ることも想定して、なるべく早く住民に知らせて下さい。早く全員に知らせて下さい。お年寄りには、準備に時間が必要。</p>	
	<p>○平成30年洪水よりも多い降雨の時はどうなのか？も疑問</p>	
	<p>○川辺にある表示板の説明に、ただし書き操作は危険なので、すぐ避難する事と書き込んでください。洪水が予想される時は、市に対して具体的に、住民にわかりやすく早く知らせてください。</p>	
	<p>○市庁に避難指示連絡する時点で『これだけの放流をしたら野村の商店街まで水に浸かります。』と具体的な水の位置を知らせてください。</p>	

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

◇河道条件

分類	意見の要旨	ダム管理者の考え方
D：河道条件	○現時点での流下能力を測定しないままに、今回の新しいルールを作るというのは無謀。	●県が測量結果などから流下能力を把握しており、ダム操作規則の変更を考慮して、必要な箇所の河道整備を進めています。
	○川の流下能力がわからないので新ルールは作れないと思います。	●野村ダム下流の河川整備見合いで、野村ダムからの最大流下量が1,000m ³ /sとなることを確認しています。
	○下流の野村町・肱川町のことを最重点に考えたダムの操作をしていくべきだ。	●新たな操作ルールについては肱川流域全体の被害軽減を考慮した操作ルールとしています。
	○1000トンの放流する事が可能か問題になりましたが、本当に流せるのか、しっかり検証してください。	

◆意見聴取及び意見聴取結果の概要について

◇その他

分類	意見の要旨	ダム管理者の考え方
E：その他	○ダムの緊急放流で責任を負う者は、利益がぶつかり合う西予市、大洲市でもなく、そして住民から遠すぎる愛媛県でもない。最も住民に近い国こそが責任を持ち、そして決定権を持つべきである。	●ダムの操作はダム管理者である国が責任を持って行います。
	○常時ゲートを開放する無人のダムに変更することを附則にでも明記する	●ゲート操作が可能なダム機能（治水、利水、発電等）を最大限発揮できるよう運用してまいります。
	○野村ダムの操作状況を逐一把握し、それを考慮し、先手先手を打ってダム操作をする必要がある筈ですし、そういう規則に変更したり、そういう操作ができる様な野村ダムとの連絡網を作らなければならない。	●鹿野川ダムは野村ダムのデータを確認できる体制となっており、必要に応じた連絡もお互い実施しています。
	○鹿野川ダムの管理者は潮汐を考慮していたのか。	●ダムは貯水位、流入量に応じて操作を行うこととしています。
	○今回のルール改正で、異常洪水時防災操作時の、ゲートの一回の操作による開度は変更になってないでしょうか？	●異常洪水時防災操作時におけるゲート1回の操作による開度は、野村ダム・鹿野川ダムとも従来通り貯水位に応じた開度としており、変更ありません。
	○ゲリラ豪雨とか実際にあるのですから、中小規模の対応だけ作っていてもいけないのでは。	●今回の操作規則改定の方針は、鹿野川ダム改造事業で増加した洪水調節容量を活用し、中規模洪水で鹿野川ダムで効果を発揮し、より大規模な洪水で野村ダム及び鹿野川ダムで効果を発揮する操作に変更することとしています。
	○操作見直しでトンネル洪水吐きの操作についてちゃんと説明すべき。	●鹿野川ダムトンネル洪水吐は、予備放流水位（EL. 76. 3m）まで下げる場合及び洪水調節時に活用します。

今回はダム操作に関係するご意見を中心にとりまとめています。

河川整備等に関するご意見については、今後の河川整備計画見直しの参考とさせていただきます。